

学生大使 事後報告書

簡野 あかり

農学部食料生命環境学科 2年

ベトナム国家農業大学 9月3日～16日

\*日本語教室での指導内容

	月	火	水	木	金
午前	2コマ	1コマ	2コマ	1コマ	2コマ
夜	1コマ	2コマ	1コマ	2コマ	1コマ

※1コマ90分

主に日本語を習いたての学生、初めて習う学生を対照に授業を行った。その時間に集まってくれた現地学生を習熟度別に分け、日本人学生が付き、少人数制で行った。

【授業内容の例】

- ・初めて日本語を習う学生の場合  
…50音表を用いてひらがな・カタカナの発音や書き方を教えた。
- ・ひらがな・カタカナが分かる学生の場合  
…テキスト「みんなの日本語」に沿って進めた。発音の仕方は特に意識して行った。
- ・ある程度日本語が分かる（会話出来る）学生の場合  
…使用しているテキストで分からないところを質問してもらったり、より実践的な（日本人らしい）会話練習を行った。

その他、日本の歌をみんなで練習したりもした。

月曜日と金曜日の一コマ目は、現地学生が先生となって授業が開講されていたので、会話練習などの補助を行った。夜に日本語教師であるラム先生の授業（有料）があるときにはこちらにも参加し、会話練習や例文の提示など、楽しみながら授業のお手伝いをさせていただいた。

\*日本語教室以外での現地での交流活動

大学内で開かれていた会社の説明会に連れていかれ、日本について色々質問を受けたので、戸惑いながらもお答えさせていただいた。着物と浴衣について説明したり、ステージ上で浴衣の着付けを実演したりもした。私は浴衣の着付けをしたことがなかったので、着

付けてもらったときのことを思い出しながらだったが、喜んでくれたので良かった。

現地学生は夏休みではなかったので、日本語教室は基本的に午前中と夜に開講していた。そのため、基本的に午後はフリータイム。授業がない学生がゲストハウスに遊びに来てくれてお話ししたり、折り紙をしたり、日本語を教えたり、ベトナム語を教えてもらったり、外でスポーツをしたり…沢山交流できて楽しかった。また、休日には遠くにお出かけもした。私は去年もベトナムに来たのだが、まだハロン湾には行ったことがなく、今年はどうしても行きたかった。そこで、去年からの付き合いで仲良しの友達にお願いして連れてってもらったのだ。ハロン湾はとても雄大できれいな場所だった。宿泊は友達のいとこのお家にお世話になった。とても温かく私を迎えて下さり、夕食作りをお手伝いや、ベトナムの家庭料理を味わうことができたのは貴重な経験だった。



大学のホールにて質問を受けた。



浴衣の着付けを行った。

#### \*プログラムに参加した感想

今回は2回目のベトナムだったので、去年と比較しながら述べてみたいと思う。

日本語教室について、去年は黒板の前に立って大勢に教えていたのに対し、今年は少人数性で教える形式になっていたため、距離感が近くやりやすいという印象だった。しかし、教える学生は毎回異なる。そのため、少しでも信頼感を持ってもらえる様に、授業の前には必ず自己紹介をし合い、なるべく現地学生の名前も覚えて、授業の中で呼ぶ様に意識して行ってみた。これは信頼関係を築く上でかなり効果的だったと思う。また、去年はひらがなやカタカナを勉強していた学生が、日本語で普通に会話できるレベルになっていたのには驚いた。ある学生に、「あかりさんは、僕に日本語を教えてくれた最初の日本人だよ。

僕は日本語がとても好き。」と言われた。自分が、この学生が日本語を学ぶ上でのお手伝いできていたのだと思うと、なんだかとても嬉しかった。

去年は「一人で行く初海外！」とういだけで私にとってはとても大きな一歩であり、何もかもが初めてで余裕がなかった。それに比べると、今年は大分心の余裕をもって臨めたので、イレギュラーなことに対しても臨機応変に対応できたと思う。いきなり現地学生が集まるホール会場に連れていかれて、「日本について教えてください」

と言われた時に、去年の自分だったらマイクを渡されても頭が真っ白になって言葉が出て来なかったと思うが、割と話すことが出来たのは成長した部分である。この時ばかりは、派遣期間が重なっていた一年生3人に唯一尊敬されたものだ。

今回派遣大学を決める際、もう一度ベトナムにするか、それともまだ行ったことのない国にするか、正直かなり迷った。しかし、「やり残したことをやりたい、お世話になった人達にもう一度会いに行きたい」という思いから、行き先をベトナムに決めた。結果として、学生大使としてもう一度ベトナムに行けて本当に良かったと思っている。二度目だからこそ得られたことが沢山あったからだ。このような経験をさせていただけたのは、とてもありがたいことである。派遣期間が重なっていた山形大学の学生、授業に来てくれたり様々な所へ遊びに連れて行ってくれた現地学生、笑顔が素敵で日本人学生をいつも温かく迎えてくれた日本語教師のラム先生、私の派遣手続きに関わってくださった大学の職員の方々には本当に感謝している。ありがとうございました。



サマプロからのベトナムだったので、  
なんとも楽しいフライトだった。

#### \*自分の目標の達成度や努力した経緯など

##### ①より沢山の現地学生とコミュニケーションをとる

英語の苦手意識はなかなか克服できていないのだが、ここ一年間、留学生と関わる機会を増やしてきたので少しは抵抗が無くなってきた。私はきれいな文の英語でないことも多かったけれど、去年よりは英語を使えたかなと思う。ただ、発音が良くないせいで伝わらないこともしばしば…。そういうときは、紙に書いて伝えた。要するに、コミュニケーションをとる上で大切なのは「伝えようとする気持ち」、「受取ろうとする気持ち」だと私は思う。授業が少人数制だったこともあり、沢山の現地学生と話すことが出来てとても楽しかった。

## ②チャレンジ精神を忘れない

2回目のベトナムなので、去年出来なかったことをやりたいと思っていた。その一つが食文化についての体験。日本でイヌはペットであり食べ物ではない。しかし、ベトナムではイヌを食べるといふ。私自身、イヌをペットとして飼っているということもあり、イヌを食べるといふことに対して、かなり抵抗があった。しかし、何事もチャレンジ！ということで食べてみた。案外臭みも無く美味しかった。イヌだということを考えなければの話だが…。

大きなことに対してでも、小さなことに対してでも、チャレンジ精神はいつも持ち続けたい。

## \*今後の展望

異文化に触れると、知らず知らずのうちに固定観念が形成されていたことに気づく。私は将来やりたいことが具体的に決まっているわけではないので、今は固定観念をどんどん取っ払って、より広い視野で見れる様に行動していきたい。それから、ベトナム印象的だったものがもう一つある。それは現地学生の「学ぼう」とする姿勢である。私は学業に対するそうした姿勢が薄れてしまっていたように思う。私が大学に入った意味、自分がやりたいことをもう一度しっかり考えて、これからの学生生活を送っていきたい。



最後の授業。本当にありがとうございました！